

キャラクター名
マテリア・M・マーダスカルト

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス		ワークス	泥棒	カヴァー	テンペスト職員
	キュマイラ					
オプション			年齢	26	性別	女
覚醒	命令	衝動	憎悪	初期侵食率	36	%
出自	権力者の血統		経験	成り上がり	邂逅	アンドリュー・ウォン

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	4	0	0			4	行動値	6
感覚	1	1	0			2	(非装備時)	6
精神	2	0	0			2	戦闘移動	11
社会	1	0	0			1	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:	2		情報:裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
暴走剣	白兵	4r-3	3	15		装備時暴走状態に

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリス	消費
[25] 超侵蝕/ディーブロージョン	P	N		
「暴走剣」	P 執着	N 不信心		
ジェイソン・K・マーダスカルト	P 尊敬	N 侮蔑		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
背徳の理	3	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 1点でもダメージを与えた際、シーン間判定+Lv×2D								
極限暴走	1	-	常時	至近	自身	自動	リミット	
効果: 1点でもダメージを与えた際を暴走を受けた際に変更								
巨人の影	1	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果: 1点でもダメージを与えた際、選択したエフェクトのLv+2、1回/1シーン								
原初の赤：一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 全力移動可能								
原初の白：マシラのごとく	3	5	メジャー	単体	-	対決	80%	
効果: 攻撃力+Lv×10、判定-5D、1回/1S								
コンセントレイト：ウロボロス	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: C値-Lv								
暴走剣	1							
効果: 下記詳細								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

己を高貴で可憐で特別で唯一無二だと信じて疑わず、その思考が故にテンペストを裏切った「ステイト・オブ・グレイス」所属のエージェント。名家に生まれ落ち、蝶よ花よと育てられ、勉強、クラブ活動、スクールカーストにおいて全てトップに君臨し続けた彼女には、自身が選ばれ死人間なのだという自負があった。退屈なスクールライフを送っていたある日、彼女はアメリカ軍が研究を進めているとあるウイルスの噂を耳にする。人類に超人がごとき力をもたらすそれは、選ばれし人間である自分がそのウイルスごときを振り向かせられないはずがない。そんな狂信的な暗示が、彼女をオーヴァード足らしめた。手に入れた才能は野蛮にも強大な戦闘技術。獣のごとき臂力は気に食わないが、無限の可能性を秘め、極めて珍しいこの影の力は誇らしい。この力で立つべき場所も、その頂であろう。そんな思惑の下、彼女はテンペストの門を叩いた。

少数精鋭を是とするテンペストにおいて、正規戦闘員になる道は険しいものであったのだが、彼女の才をもってすれば組織に籍を置く程度の実力を身に着けるのは容易かった。本来であれば、獣と影が混ざり合った安定性を持ち合わせる彼女になれば使いこなせるはずだというディアス・マクレーン中佐の進言の元、支給用装備として「暴走剣」が手渡され、晴れてテンペスト正規戦闘員となるはずであった。彼女もそのことに大いに満足していた。途中までは。あらゆる点において他の一般人と一線を画す存在で居続けなければならない彼女に与えられたあの武器を、己がためにテンペストが作り上げたオーダーメイドの一点ものだと(勝手に)思い込んでいた彼女は、入隊当日にその武器がアサルトライフルやキーンナイフと何ら変わらない、量産型の武器(それも扱いが難しいだけの不良品)の一つに過ぎないことを知った。たったそれだけ、そうそんなちっぽけなことが彼女の情動をどうにも酷く刺激した。そもそも勝手に専用装備だと勘くった彼女に大いに非があり、主席合格を勝ち取れなかったことに対する八つ当たりも兼ねていたのであろうが、まるで洗い立てのシャツにつけられた一点のシミのようなその汚点によって、彼女はプライドをへし折られ、落ち込み、激高した。その反動なのか、彼女はとある組織に縋りつき、(その組織にいいように利用される形で)テンペストが保有する「暴走剣」のすべてを盗み出す手引きをし、晴れてテンペストのダブルクロスに成り下がったのだ。自分に与えられた武器が唯一性に欠ける凡庸なものならば、その全てを手中に収めることで己のみが扱える専用装備としてしまおう、そんな欲望を叶えるために。

現在彼女は「ステイト・オブ・グレイス」に籍を置いている。彼女自身が彼らの選民思想に非常に共感を示し、彼らは彼女の家柄や影の力をちやほやしてくれる。「ステイト・オブ・グレイス」は彼女がお山の大将を気取れる格好の組織であり、同族と認めた仲間たちには自分の手柄である「暴走剣」のコレクションを貸し与えるなどの大盤振る舞いも見せている。(最中、「暴走剣」の管理は「ステイト・オブ・グレイス」が全て委任されているため、彼女へのご機嫌取りは会員のおままごと過ぎないのだが。)しかしながら、最近妙な噂を耳にした。元々この組織に所属していたオーヴァードが【ドロップアウト】し、UGNに「暴走剣